

# 佐用町での薬草による地域づくりの支援

## 薬草で地域振興にチャレンジ

兵庫県西部の佐用町では、近年人口減少が進み、農業などの担い手不足が大きな課題となっています。このような中、薬草栽培や薬草を活用した商品開発によって地域振興や雇用機会を創出する検討が始まっています。平成26年4月には、自生の薬草の栽培やブランド化による耕作放棄地の有効活用や農業の活性化を目指し、地元の農家によって構成される「佐用町薬草振興会」が設立されました。

このように、佐用町では薬草を活用した地域振興の機運が高まっていますが、薬草を産業に結び付ける手法や、栽培推進体制の構築などが依然として大きな課題となっています。

## 薬草講習会の開催支援

自生の薬草についての正しい知識をもった人材の育成に向けて、平成26年度はおもに佐



写真1 佐用町での薬草講習会

用町薬草振興会のメンバーを対象とした現地講習会を開催しました(写真1)。佐用町に自生する薬草についての講義後、現地で薬草の見分け方や生育環境についての理解を深めました。佐用町は生物多様性の高い地域であり、土着の薬草の生育にとって良好な環境があることを学びました。

## 薬草栽培推進体制の支援

平成27年度からは、漢方薬メーカーとの契約栽培を視野に入れた薬草産地化を目指し、推進体制の検討を進めています。

佐用町の農地での試験栽培に向けた情報収集や準備事項を検討するため、武庫川女子大学薬用植物園の見学と勉強会と実施しました(写真2)。勉強会では、漢方薬と民間薬の違い、漢方薬に求められる薬効成分の基準、近年の他地域での産地化の動向などについて講



写真2 武庫川女子大学薬用植物園の見学

義を受けました。薬用植物園の見学では、それぞれの薬草の栽培手法を学び、参加者からは、佐用町の気候や土壌条件に合う薬草について質問があるなど、活発な意見交換が行われました。

また、試験栽培をすでに始めている先進地の岐阜市を視察訪問し、行政・生産者・技術者のそれぞれの立場から薬草栽培の現状と課題について情報提供を受けました(写真3)。これらの成果をふまえ、佐用町での産地化に向けた推進体制を改めて検討していく予定です。



写真3 岐阜市内の試験栽培地の視察

## 畦畔の低管理に向けた実験

畦畔での除草の労力軽減に向けて、マルチングシートと薬草の植栽による雑草の抑制効果を把握する実験を実施しています。平成26年度に佐用町三日月地域と幕山地域の畦畔で、三日月地域づくり協議会、幕山地域づくり協議会、(株)里と水辺研究所、住友林業緑化株式会社のご協力のもと、マルチングシートの設置と薬草の植栽を行いました(写真4)。今後モニタリングを継続し、薬草の成長の度合いを注意深く観察していく予定です。



写真4 畦畔の低管理実験



地域づくり支援プロジェクト(佐用地域)

代表者：上田 萌子

分担者：田原直樹、藤本真里、赤澤宏樹、大平和弘

連携・協力団体：佐用町役場、佐用町薬草振興会、三日月地域づくり協議会、幕山地域づくり協議会、(株)里と水辺研究所、住友林業緑化株式会社

財源：文科省「地(知)の拠点整備事業」